Apocalypse [1]

AlphaRalpha Alley Products

Caution! For Adult Only

Faeries Wear Boots 4th [re]

クルーたちへの屈服、そして奴隷となる宣言。
その言葉を発した日から、私にとっての性行為は背徳的行いから日常へと変わりました。
繰り返される行いにすっかり身体が慣れ親しんだせいか、
今では勤務中でも常に甘い疼きが身体の奥で共鳴しています。

こうしてシングルワッチ(艦長単独当直)をしている間でも、
突き上げる疼きに負けたわたしは過去の自分の惨めな姿を反芻しながらの自涜に耽ってしまっています。
誰に見られてしまうかもわからない状況。
そんな、あるかもしれない他人の視線を意識することが自分の興奮を増していることに気づくまで、
そんなに時間はいりませんでした……。

キャプテンシートで繰り返すオナニーでも疼きを鎮められず、
自室に戻ったわたしは浅ましいほどにお尻の穴をいじめます。
でも、部屋の中ではどんなにはしたない姿を晒しても人に見られることはない……。
それに気づいてしまった時、わたしの欲望は「その次」を求め始めていました……。

しばらくの後、申請しておいた休暇が無事に受理されわたしは小さな町に降り立ちました。
自分の、メスの欲望を満たすために……。

人影もまばらな街の中、すれ違った男性に目を向けながら、コートの裾をつまんでゆっくりと拡げる。
ただそれだけの行為に、わたしの心と身体はいやらしい興奮に震え始めます。
コートの下のなにも着けていない下半身。
素肌は冬の風を受けて粟立つけれど、
その奥のメスの部分がざわめき震えるのはきっと男性の注ぐ欲望の視線にわたしが喜んでいるから。

いやらしい視線を送りながらも、
男性は変態に関わりたくはないとでも言いたげに通りすぎようとします。
わたしはそんな彼を引き留めるように、今度はお尻をさらけ出します。
発情に赤く染まるその部分を見せつけながら、
きっと、今のわたしの眼差しは、欲望にとろけきっていることでしょう……。

フラフラと近寄り始める男性の視線。
欲しくてやまなかった「それ」を全身に感じながら、わたしはコートの合わせをすべて開き、
いやらしい欲望が詰め込まれた身体を見せつけます。
縄うたれくびり出された小さな胸も、
その先で震えるように突き立つ乳首も、
期待に潤み始めているオマンコもすべて……。

男性を連れ立って人のいない公園へと向かい、
ベンチに手をついたわたしは獣の姿勢になります。

そして自分からお尻を開いて、お尻の穴までさらけ出して、
ケダモノらしくオトコを求めるのです。

変態女のストリップに気づいたのか、いつの間にか周囲でわたしを見つめる人数が増えていました。
不躾な、いやらしい、蔑みの、哀れみの、欲望の、入り混じった様々な眼差し。
求めていた「それ」をコートを脱ぎ去った身体全体に受け、淫らな喜びがわたしの心を満たします

ベンチの腰掛けたわたしは、
周りの男性たちが最も注目するはずの部分を見せつけるように、
大きく足を開きます。

そしてその中身も剥き広げ、欲望の汁を垂れ流す私自身の奥底までを、
男性たちの目にさらけ出します。
サービスでも男性たちの興奮を煽るためでもなく、
何よりも自分自身の快楽のために。

そしてわたしの痴態に煽られて、
男性たちは我先にと
わたしを貫き始めます。
空虚だった部分が満たされる瞬間。
喜びがそこから駆け抜けて行きました。

自分の身体の頼り無さ、貧弱さを意識させられる、
欲望を込めた男性たちの激しい突き上げ。
ペニスがわたしをえぐり上げるたび、
わたしの中のオンナが白く赤く染まっていくよう。

何人もの精をオマンコの奥で受けたあとも、
まだ男性たちの欲望は尽きません。
もちろんわたしの獣欲も。
自分の裡の欲望に身を任せ、
わたしはねだるように尻を突き出します。
誘拐事件の時からずっと使い込まれ、
今ではもう一つの性器となったお尻の穴。
そこにペニスを迎え入れるために。

前後の穴を共にさんざん抉り込まれた末、
ようやく饗宴は終わりました。
人もいる白昼の普通の公園で、
ただひたすらに浅ましいセックスに耽り、
見知らぬ誰かにその淫らな姿を見られる。
そうやって秘めた欲望を満たしたわたしは、
自然と周囲の男性たちへの感謝を込め、
両手でピースサインを出していました。

ことが終わって余韻も抜けたあと、
立ち上がったわたしの身体から欲望の名残が垂れ落ちます。
男性たちとわたしの吐き出した欲望の混じりあった、
白く濁った粘る液体。
以前はあんなにおぞましくも思えたものが、今はなぜか愛しく思えます。

いつの間にか男性たちは姿を消しており、
一人残されていたわたしもコートを着て公園をあとにします。
内ももを垂れ落ちる白濁の感触。
わたしが歩いたあとにも点々と残るそれが、
これが夢でなかったことを訴えているようでした……。
End

ここまでこの淫ハ者を
この淫女達の性奴隷とされました
本日も凶戦闘十テンコ8ヶハー
連合宇宙軍少佐ホシノ・ルリは

自分の中に渦巻いている、
他人の視線に晒されたいという欲望。
それに気づいてしまった妖精は、
地上を彷徨い視線を求め始めた。

Caution! For Adult Only